



(旧和商)

# 和商同窓会会報



(新和商)

(発行所) 和歌山市砂山南3丁目3-94 県立和歌山商業高校内 TEL 36-6456 発行人 村垣龍男 (第9号) 昭和55年3月1日 (土曜日)

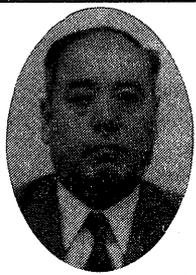
## 新大阪支部長 就任あいさつ

# 大和商とともに

増田 明 (24)



この度はからず先輩山崎敏明氏の後を継ぎ同窓会大阪支部長に就任することになりました。山崎先輩にはご高令のため支部長ご勇退のご意志が固く、この上お無理を申し上げることは、ご迷惑になるためこの際後任には副支部長三人の中からと言ったことになった結果年次の順番でまことに不適格と思われる私が指名を受けることとなり昨年八月に開催の総会で選任されました。私はもとより支部長をお引受け出来る器ではありませんので辞退を申し上げるべきであります。自己都合のみ申し上げる訳にもいかず誠に不行届きかと思ひますが役員並びに会員皆様のご理解とご協力を仰ぎまして母校と支部の発展のため微力でございますが努力する決意をいたしました。何卒よろしくお引廻しの程をお願い申し上げます。学友の結びつきに



## 増田新支部長によせて

### ◇紫紺の旗のもと……

理事長 村垣龍男

立派なスポーツマンとして活躍された増田明氏が、このたび大阪支部長に就任いただいたことは、私にとりましてこの上ない喜びであります。心よりお祝詞を申し上げます。おめでとうございます。

社団法人和商同窓会の運営はもとより私一人の力ではどうにもなりません。人生経験豊かな新支部長の御力添を賜うことは本部運営の大きな原動力となることでしょう。役員一同深く慶意を表するものであります。

「大和商」刊行以来百五十号を数える大阪支部の伝統的な発揚はまことに感激



## 発展する「大和商」

学校長 小倉 勲

めまぐるしい経済界、実業界にかがやかし業績を樹立された増田明氏が、社団法人和商同窓会大阪支部の新支部長に選任されたことは、わが校にとってほんとうに喜ばしいことであり、万福の慶意を心よりお贈りするものであります。大先輩の方々に関西財界の重鎮として大活躍なされておられることは、魅力ある商業高校へ躍進することを目標に、如何にして有能な産業人を育成すべきかに全力をつくしている私共にとって、どれだけ力になり柱になっているか計り知れないものがあります。

七十年記念行事を盛大

## 大阪支部新役員決まる

< 8月支部総会開催 >

去る八月十一日午後五時より猪名川温泉の岩屋館で大阪支部総会が開催された。本部役員多数の出席のもと滝本理事司会のもと山崎支部長の挨拶があり、五十三年度会計報告を承認、役員改選を行なった結果左記の通り新発足することになった。なお山崎前理事長に対して感謝の記念品を贈呈、また過去八年八月にわたって「大和商」の編集発行及び事務全般を担当されている十八期の滝本氏に対しても支部有志一同から記念品が贈られた。(以下役員表 敬称略カッコ内は卒業期・「大和商」一五二号掲載)

- |      |             |             |             |
|------|-------------|-------------|-------------|
| 顧問   | 田嶋 一雄 (十一)  | 則岡 祥三 (二〇)  | 大山 勲 (三三)   |
|      | 和田 次郎 (十二)  | 福田 寿太郎 (二二) | 遠山 晴夫 (三四)  |
|      | 山崎 敏明 (十一)  | 高橋 照隆 (四〇)  | 野島 寛治 (三五)  |
| 相談役  | 安福 知吉 (十一)  | 巽 泰人 (二四)   | 西川 太郎 (三六)  |
|      | 安山 芳造 (十二)  | 神前 善一 (二六)  | 小河 照雄 (三七)  |
|      | 湯川 米三郎 (十二) | 角村 啓次郎 (三九) | 鈴木 忠夫 (三八)  |
|      | 川口 竜二 (十三)  | 理事          | 榎本 保彦 (三九)  |
|      | 辻本 三之丞 (十三) | 池田 栄三郎 (十七) | 中井 敏造 (三九)  |
|      | 武藤 謙吉 (十六)  | 西野 民三 (十八)  | 大西 弥三夫 (四〇) |
| 支部長  | 田村 新兵衛 (十七) | 作部 屋梅一 (十九) | 山口 澄二 (四二)  |
|      | 増田 明 (二四)   | 奥田 兵馬 (二〇)  | 阪口 澄二 (四二)  |
| 副支部長 | 下村 達夫 (二六)  | 坂田 喜義 (二一)  | 北川 昌弘 (四三)  |
|      | 角谷 士郎 (三六)  | 福田 寿太郎 (二二) | 茨木 瑛雄 (新四)  |
| 常任理事 | 宮本 一三 (三三)  | 田村 友二郎 (二三) | 橘 和 (新四)    |
|      | 宮崎 豊次郎 (三五) | 辻本 太 (二四)   | 和田 祐一 (新四)  |
|      | 寺本 栄一 (三五)  | 神谷 末廣 (二五)  | 東 高史 (新四)   |
|      | 寺田 勝次郎 (三七) | 小阪 省三 (二六)  | 監事          |
|      | 滝本 康夫 (三八)  | 中西 良一 (二七)  | 島 良次 (二三)   |
|      |             | 藤井 邦男 (二八)  | 田村 義雄 (二四)  |
|      |             | 志摩 篤四郎 (二九) | 岸 吉孝 (三九)   |
|      |             | 竹間 清利 (三〇)  | 岩谷 輝夫 (二五)  |
|      |             | 中西 義和 (三一)  |             |
|      |             | 岡田 英資 (三二)  |             |

## 新第二十九期 卒業生評議員 (〇印理事)

(昭和五十五年三月卒)

- |              |             |              |
|--------------|-------------|--------------|
| 一組 納庄 謙次     | 五組 坂本 知子    | 九組 佐藤 雅己     |
| 和市、北島二六一     | 和市、宇須四丁目三一四 | 和市、北の新天地二丁目一 |
| 二組 三谷 博己     | 六組 井口 俊則    | 十組 上野山元基 〇   |
| 和市、島橋北ノ丁二二の二 | 和市、今福二一三六   | 海市、日方三九二     |
| 三組 菅田 明宏     | 七組 池田 悦章    | 十一組 山中 正臣    |
| 和市、鷹匠町三丁目二八  | 和市、雑賀崎一五五九  | 和市、松ヶ丘二丁目一   |
| 四組 岩本 弘      | 八組 南方 康之    | 十二組 伊藤歌奈子    |
| 和市、中の島六三二    | 和市、布引七七四の五  | 和市、松江北五丁目七一  |

# パリ語研究に没頭

## 近く成果出版の岡本氏

# 500語分析

日本語のルーツはパリ語? と今も研究に余念がない岡本博吉さんは昭和六年旧制和商卒の第二十五期生である。

昨年十一月二十五日付朝日新聞紙上で紹介され、また二月初旬母校を訪問されたところによると、昭和四十八年より日本語特に日常用語が如何に変化し混乱しているかに興味をよせ、その時以来佛教書を通じてパリ語を探求し始めたとのことである。

パリ語は紀元前四世紀ごろより主にパキスタン、スリランカなどで使われていた古代インドの俗語即ち庶民の日常用語だといわれているが、私達が常々何気なく意識することなく使っている「ありがたう」、「ありや?」など語源を探れば三千年、四千年も前にインドでよく使用された「ことば」であって、今も我々日本人の生活に密着していることに驚きを感じ、同時に岡本さんの研究心をますます刺激して現在約五百語の語源探求を終えて氏の独自の考察を加え、「日常用語のふる里たづねて」と題して第一巻を出版することになった。

今日まで使い慣らされた永い期間には時代とともに使い方の変化はあっても意義まで変るとは思えない。しかるに戦後は言葉の乱用誤用甚だしく、国語学者が等しくなげくところであり、八十年代は日本語を見直し考え直す時代として、この考察には独断もあり、誤りも少なく、専門家の評価をまたなければならぬが古来未踏のこの種の研究発表の一助に、また刺激剤にでもなれば……と氏は念願している。

「有難う」は anii(アリ) 敵のこと、 gutta(グウッタ) は守護されること。従って「アリグッタ」は敵に守られているということ。味方によって守られることは大変うれしいことであるのに、敵によって守護されるに至っては最高の幸福というもの。これは「有難う」の言葉(感謝の表現)の使い方であり意味ではない。敵と共に生きるといいう saba(シャバ) をなまって社会、ともどもに堪え忍び合う sabbā sabbā (ジャバ、シャハ) 娑婆、

すべてこの関係の基本観念から出た言葉である。「ありや?」はパリ語の aya(アリア)、サン スクリット語の(アリア) から来た二通りのなまり言葉で聖なること、高貴なことを意味し、何もかも計算しつくして遺漏ないはずだの佛法上の意義からきている。

「馬鹿野郎」という語などは、争う両方の間に立つて次第に激化する感情を静めようと vacca yata (バーキヤ、ヤタ) 「言葉をつつしみなさい」と呼びかけたのが馬鹿野郎と当て字したために感情刺激の

言葉にかわり、社会秩序破壊をも招来するに至っている。「あちー」(熱い) は achi(アッチイ) 光線熱線のこと。(一部掲載)

現住所 〒五五六〇 豊中市校塚一七四 TEL(06)八五五〇二二二

たかのす

OB諸氏のご投稿を歓迎、私の趣味・特技」など、またクラス会の現況等左記事務局へ送って下さい。同窓会室(山田まで) (〇七三四)三六六四五六

昭和15年 第34回卒業証書授与式を挙げる、卒業生一四三名 (3・4)

教諭木島主税日支事変に出征中の処死(12月1日慰霊祭) (8・21)

皇紀二六〇〇年奉祝式挙行(11・10)

「商業教育と学校運営」の研究会開催、本夏季休暇中注記委員の精神をかたむけた労作「本校教育要覧」を披露し、時局即応の教育を世に問う

爾後この教育方針の下に

昭和16年 第35回卒業証書授与式を挙げる、卒業生二〇一名 (3・4)

和歌山県令第24号を以て本校生徒定員を二二五〇名に、及び学科課程改正の件認可せらる (5・20)

本校卒業生の戦死、戦病死者の慰霊祭を本校に於て執行す (11・16)

第36回卒業証書授与式を挙げる(繰上卒業) 卒業生八六名(12・26) (次号へ)

昭和17年 文部省より総合視察あり (1・22)

文部省浜地督学官本校を視察す (10・8)

雨森宣三校長大阪市立天王寺商業学校長に補せらる、本校教諭内藤俊彦校長(十代)に補せらる (10・23)

本校卒業戦死者十三柱の慰霊祭執行 (11・15)

第37回卒業証書授与式を挙げる(繰上卒業) 卒業生八六名(12・26) (次号へ)

# 母校年代誌抜すい⑥

(昭和十五年以降)

# 大阪支部長に就任した 増田 明氏

「私などとても支部長には……」と温顔で実直な氏の第一声。学生時代だけでなく社会人としても一身にあつめた人望は、接していて好感をおくあたわず、沸々として人間味を感じさせる人柄で誰とでも屈托がない。大阪支部のリーダーとしての抱負も、豊かな話題の中から飛び出し今後の大和商の大黒柱として会員の敬愛の的と

なるだろう。和商在学中は各年次級長に推され、クラブ活動は東山健之助先生のもとで剣道部員として活躍、四年時に早くも初段(大日本武徳会)を獲得、その後の活躍めざましく全校生徒の模範となつた。談笑に花を咲かせ、ごく自然の姿の中にも一分のすきもなく、朝もやをつく烈迫の気合とともに、激しい闘志をみせさせたあの和商時代の剣道場での寒稽古を偲ばせる気品と風格を備えている。現在でも社会職域において熱心に剣道を指導されている。(全日本剣道連盟六段教士号保持)

昭和五年和商卒業と同時に堺市の福助足袋株式会社(現在の福助株式会社)に入社、以来勤続すること四十七年間、常務取締役を最後に昭和五十一年末に退任され現役を退いた。その間堺商工会議所常議員(役員)を三期九年間、また堺地域雇用協議会会長として堺市発展に身を挺して尽力され、また関西大学教育後援会副会長や相談役などを歴任され教育界にも極めて多くの功績を残された。

軍隊生活も長く終戦後無事南方より帰還されるや、現役入隊が信太山野砲兵第四連隊であった関係で現在信太山砲四会(会員数三千三百名)の会長として世話

役を受け持っている。明治四十五年六月一日和歌山市内日出生、雄小中学校出身。和商第二十四期生。堺市では目下和歌山県人会会長をつとめられ、また大阪和歌山県人会代表理事として専ら社会奉仕活動を精力的に推進し多忙な日々を送っている。

趣味は多く主としてスポーツ、園芸、麻雀等。長男長女、孫四人は別居、現在は御夫婦で悠々自適。

現住所 / 堺市西野二二八の五六 (虹ヶ丘)

若き日の思い出

飾り棚「また商業美術部でした。余りにもお粗末な第一棟(本館)に、せめてもの花を添えようと、部員あげて、縦半間、横二間程の壁面を三学期一杯かけて作りあげ、本館玄関に飾りつけました。それは、色とりどりの野花が咲き競う広々とした山野で、くじゃく、しか、つるな

もって学園づくりにいそしんでいる姿が象徴されていきました。また、玄関正面にショウウィンドが設けられ、季節のもの、流行のものが次々と飾りつけられ、えてして殺風景になりが

のです。(現在は造り変えられています) 司会「そのような生徒の動きのなかで、劣悪な環境や条件を克服しながら和商が立派に成長してきましたが、先生方の苦勞も大変でしたしょう。」

蔵垣新之助記

地域産業との有機的関連における商業教育の視覚教育に関する研究

「地域産業との相互協力により理論と経済活動の実態との有機的関連をはかる研究 (以下次号へ)



母校教諭